



～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

全国高校文芸コンクール小説部門で、石山楓さん最優秀賞

第38回 全国高等学校文芸コンクール表彰式

主催：(公社)全国高等学校文化連盟 読売新聞社 後援：文化庁他 協賛：(公財)一ツ橋文芸教育振興会

「くにおー。國夫は居ねがー」

子どもにもわかるわざとらしさでおちよくって呼ぶその声に、疲れやらで目を閉じかけていた私はびくっと大きく肩を揺らした。…

「駐車場の人々」はこんな一節から始まります。

まるで、尾花沢市のどこかのある場面が脳裏に浮かんでくるような冒頭で、思わず引き込まれます。

尾花沢小学校、尾花沢中学校を卒業され、現在、県立山形西高等学校2年生の石山楓さんが、高校生の文芸の最高峰「全国高校文芸コンクール」小説部門で最優秀賞に輝きました。全7部門の応募作品22,957点の中で、特に優れた作品に与えられる文部科学大臣賞も受賞しております。

この度、石山さんにいくつかの質問に答えていただきましたので、紹介します。

Q：小説を書き始めたきっかけは？

A：元から作文など、文を書くことが好きで、それが現在までつながった感じです。

Q：小説を書いているときに楽しいと感じることは？

A：文の表現を自分の感覚に近いものにできたとき、達成感があります。

Q：小中学校で学んだことで、小説を書くのに役立っていることは？

A：熟語やことわざ、表現の幅が広がることです。

Q：小中学生におすすめの本は？

A：ドリトル先生シリーズ。読書に興味がない子ども、個性豊かな動物たちに心惹かれるのでは…。

Q：後輩である尾花沢市の小中学生に、文章を書くときのアドバイスを！

A：文の語尾（「です・ます」など）をなるべく繰り返さない、適切な接続詞を程よく使う、などですね。

石山さん、ありがとうございました。
今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。



国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた表彰式で喜びの表情をみせる石山さん



受賞を報告する石山楓さん（県庁）

2023.12.26 山形新聞

石山さん(山形西高) 最優秀賞

全国高校文芸コンクール 小説部門

地元の尾花沢、家族から着想

今年の全国高校文芸コンクール小説部門で、山形西高2年生石山楓さん(17)の作品「駐車場の人々」が最優秀賞に輝いた。暮らしている尾花沢市の環境や家族から着想を得た作品で、心痛描写などが高く評価された。石山さんは先日、高橋広樹県教育庁長官に報告した。コンクールは小説や文芸評論、随筆、時評、短歌など7部門。計約2万3千の応募があり、高校生を対象としたコンクールでは最大の規模とされる。全国高校文化連盟が毎年開催している。石山さんは東北地方に住む少年を物語の主人公とした。祖母が認知症になり、少年の気持ちが変化していくストーリー。6歳年下の弟をヒントに主人公を描いた。

小説を書き始め、高校では文芸部に所属している。コンクールに応募した作品としては今作がある。『記憶するよりも文章に書きたい。これからは俳句や詩なども触れていきたい』と意欲を語った。(玉田泰明)

【担当】尾花沢市教育委員会 こども教育課
教育指導室長 工藤 雅 史
TEL 23-3330